

群 教 セ	G10 - 01
	平21.241集

よりよく生きようとする児童を育てる 単元的な道徳学習の指導の工夫

— 「連続型単元」・「関連型単元」を構想し、
自己内対話を取り入れて —

長期研修員 小林 信男

《研究の概要》

本研究では、小学校の道徳の時間において道徳的心情を高めることのできる「連続型単元」と道徳的判断力を高めることのできる「関連型単元」を構想し、授業実践を図った。そして、単元の終末部に学んできた道徳的価値から自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えられる自己内対話を取り入れて、行為に結び付けられるようにした。このような学習を通して、よりよく生きようとする児童の育成を目指した。

キーワード 【道徳 小学校 単元的な道徳学習 連続型 関連型 自己内対話】

I 主題設定の理由

現在、社会全体のモラルや家庭・地域の教育力低下、体験の減少など、子どもを取り巻く社会環境の変化が、子どもの心の成長に大きな影響を与えている。その影響を受けた子どもたちの姿から、生命尊重の心や自尊感情が乏しいこと、基本的な生活習慣の確立が不十分、規範意識の低下、人間関係を築く力や集団活動を通じた社会性が乏しいなどといった指摘がなされている。

これらの指摘に対して、学校における役割として道徳教育の充実が求められている。道徳性を養うことを目的としている道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うことが学習指導要領で明確化されている。そして、道徳の時間の目標に「自己の生き方についての考え」の文言が加えられた。また、「児童の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること」として、指導する事柄や道徳の時間の授業改善の方向が示された。そのため、学習指導要領解説の道徳編では、学習指導の構想例を挙げ、多様な学習の展開など指導の工夫改善を促進することが示された。

これまでの道徳の時間における子どもたちの様子を見ると、授業中は建設的な考えを述べたり書いたりしていた。しかし、授業後、学習した道徳的価値にかかわる場面になった際、授業で見られた道徳的心情や道徳的判断力が生かされていないことがあった。頭では何となく分かっている、行為に結びつくまで気持ちが高まらなかったり、どう行動したらよいか判断できなかったりしたこ

とが原因として考えられる。

そこで、道徳的価値の意味やその大切さについて思考できるようにしながら、よりよく生きたいという願いをもてるようにしていくとともに、その実現を目指していく態度を育てていく必要がある。そのために、重点的に指導する道徳的価値についての扱いを工夫する単元的な道徳学習を構想し、授業実践をしていく。構想するに当たり、道徳的心情を高めることのできる「連続型単元」と、道徳的判断力を高めることのできる「関連型単元」の二つを考えた。扱う道徳的価値や児童の実態を考慮しながら、いずれかの単元構想を行い、複数時間の指導をしていく。また、学習した道徳的価値を基に自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えることのできる自己内対話を取り入れることで、道徳的实践意欲と態度を高め、行為に結び付けられるようにしていく。

このような道徳学習の構想を行うことにより、よりよく生きようとする児童を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

道徳学習において、「連続型単元」と「関連型単元」を構想するとともに、単元の終末部に、それまでに学んできた道徳的価値から自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えることのできる自己内対話を取り入れていけば、よりよく生きようとする児童を育てることができることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 連続型単元において、同一の道徳的価値を扱い、複眼的な視点から道徳的価値を追求していく授業実践をしていけば、道徳的心情を高めることができるだろう。
- 2 関連型単元において、複数の道徳的価値を扱い、道徳的価値を関連付けながら追求していく授業実践をしていけば、道徳的判断力を高めることができるだろう。
- 3 単元的な道徳学習の終末部に、学んできた道徳的価値から自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えることのできる自己内対話を取り入れれば、道徳的实践意欲と態度を高めることができるだろう。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) よりよく生きようとするとは

自分の生活を振り返り、内省することによって、自分とのかかわりの中で道徳的实践意欲と態度を高めていこうとすることである。この指導は、小学校学習指導要領「道徳」における道徳の時間の目標の「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める」ことにつながる。そして、現在の生活及び将来の生き方の課題を実現してい

こうとする思いや課題を育てることは、道徳的实践意欲と態度を高めることにつながると考える。

「道徳的価値の自覚を深める」について「小学校学習指導要領解説 道徳編」(P. 30)では、「次の三つの事柄を押さえておくことが考えられる」として以下のように示している。

- ① 道徳的価値についての理解
- ② 自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること
- ③ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること

「自己の生き方についての考えを深める」については、「道徳的価値の自覚を深める」過程で同時に深めていることを強く意識して指導することが重要であるとしている。

本研究では、「道徳的価値の自覚を深める」について、以下のようにとらえていきたい。

①の道徳的価値についての理解とは、道徳的価値の意味やその大切さを理解することである。例えば、資料などを基に、ねらいとする道徳的価値を「ああ、そうだったのか」や「～が～の気持ちになるのだ」などと、改めて認識したり新たに理解したりできるようになることである。

②の自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられるとは、学習した道徳的価値について、これまでの自分と照らし合わせながら理解することである。例えば、「自分の～と一緒にだ」や「自分も～すると～だ」などと、これまでの自分を振り返り、比較したり関連付けたりできるようになることである。

③の道徳的価値を自分なりに発展させていくこ

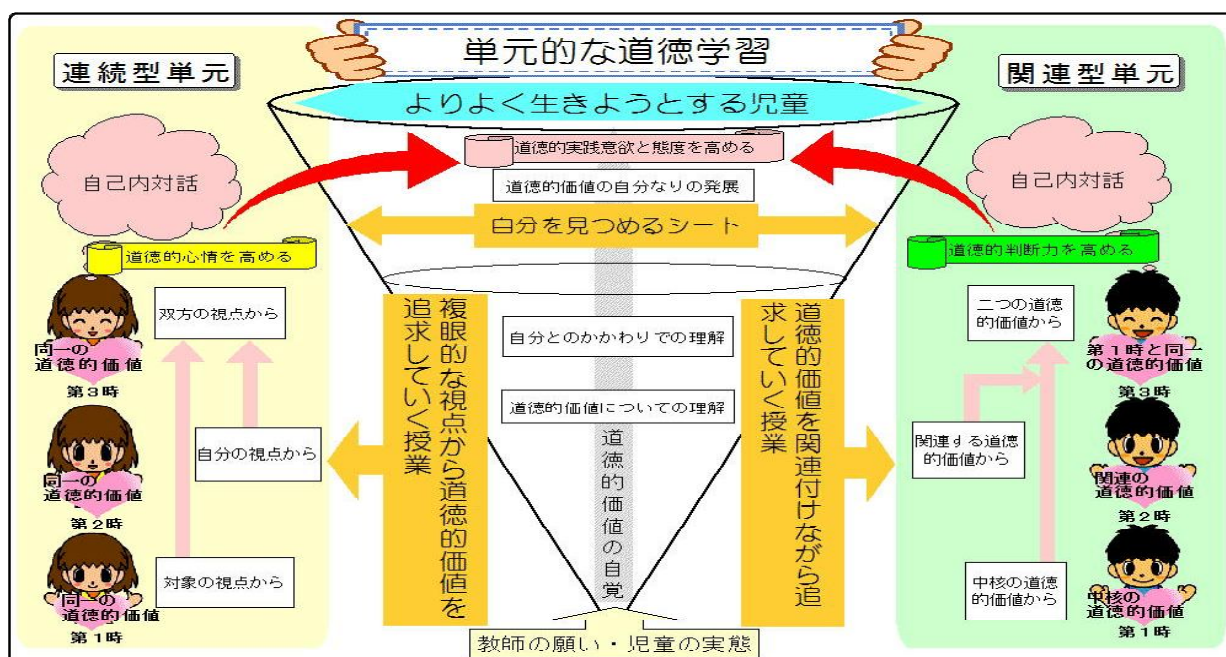


図1 研究の構想図

とへの思いや課題が培われるとは、学習した道徳的価値を基に、これまでの自分を見つめ直し、よりよい生き方に憧れたり、よりよく生きたいという願いをもったりできることである。例えば、「～になりたい」や「～してみよう」などと、なりたいたい自分像や具体的な行為像について考えられるようになることである。

(2) 単元的な道徳学習とは

重点的に指導したいと思われる道徳的価値を単元のように複数時間扱う道徳の授業群である。

扱い方によって「連続型単元」と「関連型単元」の二つが考えられる。「連続型単元」では同一の道徳的価値を繰り返して扱い、「関連型単元」では複数の道徳的価値を互に関連付けて扱っていく。また、最終時の後半に「自分を見つめるシート」を活用して、自己内対話を取り入れていく。

このような単元的な道徳学習により、前時までの学習を生かしながら、学習をじっくりと積み重ねていけるようにする。そうすることで、道徳的心情や道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度が高まり、よりよく生きようとする児童を育てていけると考える。

(3) 連続型単元とは

道徳的心情を高めにくいと思われる道徳的価値を扱う場合の単元構想の型である。

道徳的心情を高めにくいとは、頭では分かっているが、なかなか行動と結び付けて考えていけるようにすることが難しい場合である。

そこで、同一の道徳的価値を扱い、道徳的心情を高めていけるようにする。これは、対象（他者や社会等）・自分・双方の視点という複眼的な視点から道徳的価値を追求していくことで、道徳的価値についてさらに理解していけるようにすることである。構成としては、2種類の単元を考えることができる。

一つは、第1時は対象の視点、第2時は自分の視点、第3時前半は双方の視点から道徳的価値を追求していける授業である。

例えば、「連続型単元の構想例」（図2）のように、全3時間を道徳の内容2の視点で低学年「礼儀」の道徳的価値を扱う。第1時は、礼儀正しい行為をされた相手の視点からとらえ、行為をされることによって、気持ちがよくなることに気付けるようにしていく。第2時では、礼儀正しい行為をする自分の視点からとらえ、行為をすることによって、自分が気持ちがよくなることに気付ける

ようにしていく。第3時前半では、礼儀正しい行為をすることによって、相手も自分も気持ちがよくなることに気付けるようにしていく。そして、第3時後半では、「自分を見つめるシート」による自己内対話を取り入れることで、これまでの礼儀に関する行為を振り返り、自分も相手も気持ちよく過ごせるように、自分にできることを考え、道徳の実践意欲と態度を高めていけるようにしていく。

もう一つは、第1時と第2時の視点を入れ替えて、自分の視点、対象の視点、双方の視点の順に行う授業が考えられる。

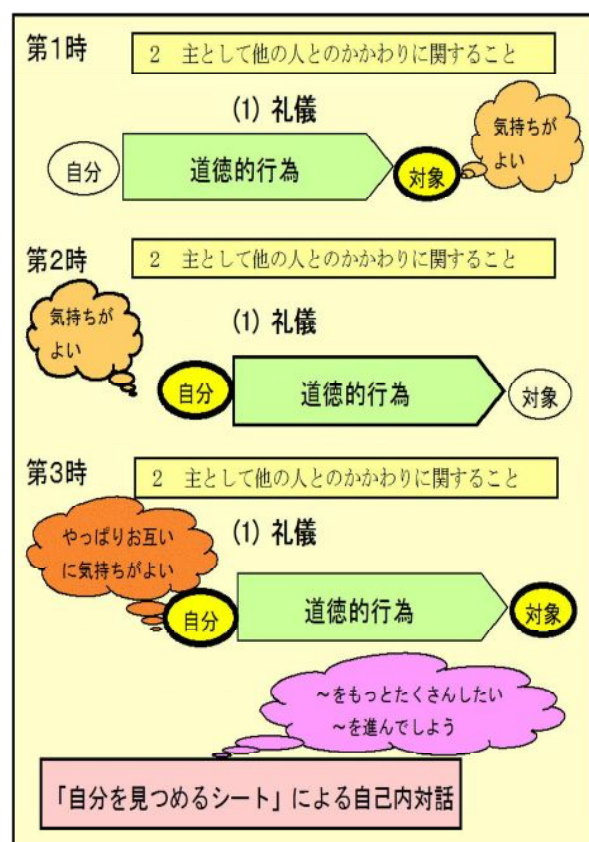


図2 連続型単元の構想例

(4) 関連型単元とは

道徳的判断力を高めにくいと思われる道徳的価値を扱う場合の単元構想の型である。

道徳的判断力を高めにくいとは、頭では何となく判断できるが、どのように対処することが望ましいかを判断する力を身に付けていけるようにすることが難しい場合である。

そこで、複数の道徳的価値を扱い、道徳的判断力を高めていけるようにする。これは、中核となる道徳的価値に、ほかの道徳的価値を関連付けることで、それを手掛かりとして道徳的判断ができ、

道徳的価値についてさらに理解していけるようにすることである。

第1時は単元の中核となる道徳的価値の視点、第2時は前時の道徳的価値に関連する道徳的価値の視点、第3時前半は第1時の中核となる道徳的価値と関連付けた道徳的価値の二つの視点から、道徳的価値を追求していく授業である。



図3 関連型単元の構想例

例えば、「関連型単元の構想例」（図3）のように第1時は、高学年3の視点「生命尊重」の道徳的価値を扱う。限られた命を大切にして生きようとしている人の姿から、命はかけがえのないものであると気付けるようにしていく。第2時は、4の視点「役割・責任」の道徳的価値を扱う。人の命を守るために一生懸命に働く人々の姿から、自分の役割を自覚し、最後まで責任を果たす大切さについて気付けるようにしていく。第3時は、再び「生命尊重」の道徳的価値を扱う。命は様々な人の責任や役割によって守られ、支えられているから、かけがえのないものであると気付けるようにしていく。そして、自己内対話をする中で、これまでの命を大切にする考え方や行為を振り返り、自分にできることを考え、道徳的实践意欲と態度を高めていけるようにしていく。

(5) 自分を見つめるシートとは

道徳的实践意欲と態度を高めていけるようにしていくシート（図4）である。これは、単元の最終時後半に活用し、学んできた道徳的価値を基にして、自己内対話をできるようにするものである。

まず、学習した道徳的価値と照らし合わせることで、これまでの自分の心や行動を、振り返れるようにする。

次に、学習してきた道徳的価値を基に、なりたい自分像を複数考えることで、多面的に自分を見つめられるようにする。そして、一つに絞り、その理由を考え、なりたい自分像の意味付けをできるようにし、今までの自分を見つめ直せるようにする。

さらに、なりたい自分像に迫るために、具体的な行為像を考えることで、行動に結び付けられるようにする。

最後に、これまでの学習について振り返り、思ったことや考えたこと、分かったことなどを記述することで、以前よりも自分を向上させていこうとする気持ちをもてるようにしていく。

このように、「自分を見つめるシート」により自分を見つめ直し、なりたい自分像に向けた具体的な行為像を考えられるようにすることで、実践に向けた見通しをもてるようにしていく。

じぶんを見つめるシート	
あたにかい心で	2年 くみ ばん
◆1 クラスのともだちに、どんな思いやりのある行動をしましたか？	
となりの子に、けしゴムをかしてあげました。	
◆2 これから、思いやりの行動ができるどんな子になりたいですか？	
☒ ともだちの力になれる子 ☐ だれとでもながよくできる子 ☐ 大きなこえであいさつできる子	
◆3 どうしてになりたいのですか？	
ともだちの力になって、そのともだちをたすけてあげたいから。	
◆4 そのためにどんな行動をしたらよいと思いますか？	
こまっている子にすすんでこえをかけてあげる。	
◎ 3時間のじゅぎょうをおえて、今、思っていることや考えていることはなんですか？	
思いやりは、友だちをつくったり、そのクラスをいいクラスにしたりするきっかけのこうどうだと思っています。これからは、わたしも思いやりのあることをしたり、ほかの人がそれをやっていたらほめてあげたりしたいです。	

図4 自分を見つめるシート

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対 象	小学校 2 学年 児童26名	小学校 6 学年 児童34名
期 間	平成21年10月 7日～10月22日 全 3 時間	平成21年10月27日～11月11日 全 3 時間
授業者	小林 信男	
単元名	あたたかい心で 連続型	夢に向かって 関連型

(2) 抽出児童

連 続 型	A(2年生)	事前調査において、「思いやりから思いつく言葉」を「助ける人」と記述した。記述した理由を本人に聞くと「転んだ人を助ける」と答えたが、自分から進んで行動することはあまり見られない。
関 連 型	B(6年生)	事前調査において、「夢の実現に向けて必要なこと」を「勉強」と記述した。記述した理由を本人に聞くと「大切だと思ったから」と答えた。自分から進んで行動したり表現したりすることが苦手である。

(3) 検証計画

検証場面	検証の観点	検証の方法
見通し 1	連続型単元において、同一の道徳的価値を扱い、複眼的な視点から道徳的価値を追求していく授業実践をしたことは、道徳的心情を高める上で有効であったか。	道徳的価値に関する調査（事前・事後）、児童の観察（道徳の時間、日常生活）、ワークシートの記述
見通し 2	関連型単元において、複数の道徳的価値を扱い、道徳的価値を関連付けながら追求していく授業実践をしたことは、道徳的判断力を高める上で有効であったか。	児童の観察（道徳の時間、日常生活）、ワークシートの記述
見通し 3	単元的な道徳学習の終末部に、学んできた道徳的価値から自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えることのできる自己内対話を取り入れたことは、道徳的实践意欲と態度を高める上で有効であったか。	児童の観察（道徳の時間、日常生活）、ワークシートの記述

V 研究の展開

1 連続型単元

(1) 単元名

「あたたかい心で」

(2) ねらい

温かい心で接するよさに気づき、身近にいる人に対して、思いやりの心をもって行動しようとする実践への意欲と態度をもつ。

(3) 実践の流れ(3時間)

	時	資料名	主な学習内容	研究上の手だて・見取りの視点
見 通 し 1	第 1 時	えどしぐさ 2－(2) 思いやり	○江戸しぐさの行為を受けた時の気持ちについての感想を発表する。 ○思いやりのある行為を受けた時の気持ちについて考える。	【見通し1にかかわる手だて】 対象の視点から道徳的価値の意味や大切さを追求していけるようにする ☆【道徳的心情】 思いやりのある行為を受けると、温かな気持ちになれることに気付いている。 (発言・ワークシート)
		カートおきばへ	○資料「カートおきばへ」	

第2時	2-(2) 思いやり	の読み聞かせを聞いて、女の子がカードを片付けた理由について考える。 ○思いやりのある行為をした時の気持ちについて考える。	【見通し1にかかわる手だて】 自分の視点から道徳的価値の意味や大切さを追求していけるようにする ☆【道徳的心情】 思いやりのある行為をすると、よい気持ちになることに気付いている。 (発言・ワークシート)
第3時	だれのために 2-(2) 思いやり 	○相手を思いやる四つの行為について、これまでの学習を基にして考える。 ア 隣の席の子に教科書を見せてあげること イ 転んだ子に「大丈夫？」と声をかけること ウ 濡れた廊下を拭くこと エ トイレのサンダルを揃えること ○自己内対話をする。 これまでの自分を見つめ直し、なりたい自分像を考える。 ○単元を振り返る。	【見通し1にかかわる手だて】 双方の視点から道徳的価値の意味や大切さを追求していけるようにする ☆【道徳的心情】 思いやりのある行為をしたりされたりすると、気持ちがよくなることに気付いている。 (発言・ワークシート) 【見通し3にかかわる手だて】 今後の自分自身の課題を考えていけるようにする ☆【道徳的实践意欲と態度】 クラスの友達に思いやりの心をもって接するために、なりたい自分像と具体的な行為像を考えている。 (発言・ワークシート)

2 関連型単元

(1) 単元名

「夢に向かって」

(2) ねらい

夢をもって前向きに生きる素晴らしさに気付き、目標に向かって粘り強く努力しようとする実践への意欲と態度をもつ。

(3) 実践の流れ(3時間)

	時	資料名	主な学習内容	研究上の手だて・見取りの視点
見通し2	第1時	夢はかなう 1-(2) 希望・努力	○高橋尚子さんが、世界最高記録を目指し、「いままでに いったいどれだけ走ったか 残すはたった42キロ」と、表現した理由を考える。 ○頑張っているようになった時の気持ちを考える。	【見通し2にかかわる手だて】 中核の道徳的価値の意味や大切さを追求していけるようにする ☆【道徳的判断力】 目標の達成に向けて、前向きに努力することのよさに気付いている。 (発言・ワークシート)
	第2時	きずな 2-(5) 感謝	○高橋さんが支えてくれた人たちに対して、感謝していた理由を考える。 ○自分の努力を支えてくれた人に対する気持ちを考える。	【見通し2にかかわる手だて】 関連する道徳的価値の意味や大切さを追求していけるようにする ☆【道徳的判断力】 多くの人に支えられ、今の自分がいることを感じ、支えてくれた人たちへの感謝の念をもつ必要性に気付いている。 (発言・ワークシート)

第3時	たからもの 1－(2) 希望・努力 2－(5) 感謝 	○立道聡子さんの夢に向かう前向きな姿の理由を考える。 ○自己内対話をする。 これまでの自分を見つめ直し、なりたい自分像を考える。 ○単元を振り返る。	【見通し2にかかわる手だて】 中核の道徳的価値の意味や大切さを前時学習した道徳的価値と関連付けて追求していけるようにする ☆【道徳的判断力】 あきらめず努力することの大切さを、支えてくれた人への感謝の念と関連付けて考えている。 【見通し3にかかわる手だて】 今後の自分自身の課題を考えていけるようにする ☆【道徳的实践意欲と態度】 どんな6年生になりたいか、なりたい自分像と具体的な行為像を考えている。 (発言・ワークシート)
-----	--	---	---

VI 結果と考察

1 見通し1

連続型単元において、同一の道徳的価値を扱い、複眼的な視点から道徳的価値を追求していく授業実践をしたことは、道徳的心情を高める上で有効であったか。

(1) 連続型単元についての実践の結果

① 第1時(対象の視点から)

「江戸しぐさ」(江戸商人として、人間関係を円滑にするための知恵)から、「こぶし腰浮かせ」と「傘かしげ」(図5)を扱った。それを基に、思いやりのある行為をしてもらった側の視点から考えられるようにした。



図5 傘かしげの動作化の様子

簡易ベンチに五人の児童を座らせようとしたところ、一人だけ座れない児童がいた。握りこぶし一個分ずつ端につめる「こぶし腰浮かせ」を行えるようにしたところ、一人分の座れるスペースができたことから、先ほどの児童は座ることができた。この児童にどんな気持ちであるのかを発表させたところ、「最初、座れなかったけれど、端につめて私の席をつくってくれたので、座れました。

嬉しかったです」と述べた。

次に、雨が降っていて細い道を相手とすれ違う時に、お互いが傘を斜めに倒して、相手を通りやすくする「傘かしげ」を行えるようにしたところ、「雨にぬれなくて通れるので、よかったです」や「せまいところが通れたので嬉しかったです」などの発言があった。

授業の感想に、「江戸しぐさのようなちょっとした思いやりのあることをすると、された人が気持ちよくなるのが分かりました」や「思いやりのあることをしてもらって、うれしくなります」などの記述があった。

② 第2時(自分の視点から)

スーパーマーケットの駐車場に置いたままの買い物用カートを片付けた少女の作文を資料として扱った。少女がカートを片付けた思いやりのある行為をしたことを基に、自分の視点から考えられるようにした。

その結果、授業の感想の記述に、「女の子のようにだれかにしんせつにすると、よい気持ちになると思います」や「思いやりのあることをすると、心があたたかくなります。思いやりのあることって、よいことなんだと思いました」などが見られた。

③ 第3時前半(双方の視点から)

前時までの学習について振り返った後、相手を思いやる四つの行為の具体例を基に、思いやりについて考えられるようにした。

その結果、「思いやりのあることをしてもらって気持ちよくなり、自分でしても気持ちよくなることが分かりました」や「思いやりのあることをしてあげると、うれしくなるんだと思います。してもらってもうれしくなると思います」などの発言があった。

(2) 連続型単元についての考察

① 抽出児童Aの反応と変容から

第1時では、対象の視点から思いやりのある行為をしてもらった時の心情について考えられるようにしたところ、「友だちのはっぴょうを聞いて、思いやりのあることをしてもらおうと、心があたたかくなると思いました」とワークシートに記述していた。心が温かくなると思っていることは、対象の視点から善い行為であると感じていると思われる。

第2時では、自分の視点から思いやりのある行為をした時の心情を考えられるようにしたところ、「思いやりのあることをしてあげて、またよい気持ちになると思いました」とワークシートに記述していた。相手を思いやる行為をするとよい気持ちであると思っていることから、自分の視点から善い行為であると感じていると思われる。「またよい気持ち」の「また」は、前時の学習で感じた「心があたたかくなる」の心情をつなげて考えている。このことは「思いやり」に関する道徳的心情が前時よりも高まりつつあると考える。

第3時前半では、これまでの学習を基に、思いやりのある行為をした側とされた側の双方の視点から心情を考えられるようにしたところ、以下の記述が見られた。

思いやりのあることをしてあげると、自分もよい気持ちになるし、あい手もよい気持ちになることがわかりました。たとえば、となりの子がきょうかしよをわすれたら、見せてあげることです。思いやりのあることをすることは、よいことだとわかりました。

相手を思いやる行為をしても、されても気持ちがよいと感じているだけでなく「思いやりのあることをすることは、よいことだとわかりました」と記述していることから、思いやる行為の大切さに気付いていると思われる。また、具体的な行為の例を記述している。これらことから第1時、第2時よりも道徳的心情が高まったと思われる。

以上のことから抽出児童Aは、第1時から段々と道徳的心情を高めることができたと考える。

② 第3時前半の記述と事前・事後アンケートから

第3時前半の児童のワークシートの記述に、「最初、思いやりはどういうことだろうと思いました。思いやりのことをべんきょうして、思いやりのあることをしてもされても気持ちよくなることがわ

かりました。思いやりってよいことなんだと思いました」や「思いやりはすごいです。思いやりのあることをすると、町の人や友だちだけでなく自分もとても気持ちよくなるからです」などの記述があった。

また、授業実践の前後に「思いやりから思いつく言葉」を記述できるようにしたところ、事前では「楽しい」「優しい」「おもしろい」などが主な記述であった。このように記述した児童は80%であった。事後は上記以外に、「気持ちがよい」「嬉しい」などの記述が見られ、記述した児童も96%に増えた。さらに「親切」「優しくする」「助ける」「仲良くする」などの行為を表す記述も増えた。

このように相手を思いやる行為に目が向けられるようになったこと、道徳的心情を表す言葉を記述する人数や記述する言葉の種類が増えたことなどから、道徳的心情が高まったと考える(図6)。

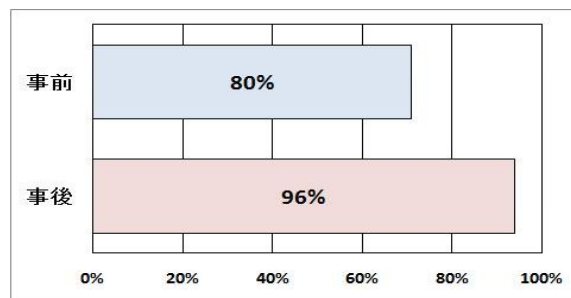


図6 「思いやり」についての記述

以上、①と②のことから連続型単元において、同一の道徳的価値を扱い、複眼的な視点から道徳的価値を追求していく授業実践をしていけば、道徳的心情が高まっていくことが分かった。

2 見通し2

関連型単元において、複数の道徳的価値を扱い、道徳的価値を関連付けながら追求していく授業実践をしたことは、道徳的判断力を高める上で有効であったか。

(1) 関連型単元についての実践結果

① 第1時(中核となる道徳的価値から)

本時の中核となる道徳的価値「希望・努力」であることから、元女子マラソン選手の高橋尚子さんが前向きに努力する姿と、彼女が作った「いままでに いっただいどれだけ走ったか 残すはたった42キロ」の短歌を基に、「希望・努力」について考えられるようにした。

その結果、授業の感想の記述に「あきらめず頑

張れば『夢はかなう』ということが分かった。また努力は大切」や「最後まであきらめないで何事もやっていけば、必ずといっていいほど結果が出ることが分かった」などがあった。

② 第2時(関連の道徳的価値から)

前時に学んだ道徳的価値「希望・努力」の大切さに気付けるように、その手掛かりとなる道徳的価値「感謝」を関連付けて扱った。挫折から復活できた高橋尚子さんが、いろいろな人たちの支えから絆を感じていることを基に、「感謝」について考えられるようにした。

その結果、授業の感想の記述に、「つまずいてしまうことがあるけど、それを支えてくれる親やいろいろな人に対して感謝の気持ちをもちたいと思いました」や「支えてくれた人たちのおかげでよい結果を出せたので、お礼を言いたい」などが見られた。

③ 第3時前半(二つの道徳的価値から)

前時までの学習について振り返った後、第1時の中核の道徳的価値「希望・努力」と前時の道徳的価値「感謝」を関連付けて扱った。目に障害をもつ立道聡子さんの努力をして夢に向かう前向きな姿と、彼女が夢を叶えるために多くの人に支えられていることに感謝している姿を基に、「希望・努力」を「感謝」に関連付けて考えられるようにした。

その結果、「ちょっとしたことであきらめてはいけないと思います。なぜなら、私には支えてくれる家族がいるからです」や「夢に向かって努力することはとても大切なことです。それは、身近に応援してくれる人がいるからです」などの発言があった(図7)。



図7 発言している様子

(2) 関連型型単元についての考察

① 抽出児童Bの反応と変容から

第1時では、高橋さんの作った短歌についての

友達の意見に耳を傾け、「これまでの練習にくらべれば42キロなんて少ない」や「そのくらい必死になって練習したから」という友達の発言に、大きく頷いていた。また、「頑張れば、できなかったことができるようになります」とワークシートに記述した。これらのことから、夢や目標を叶えるためには、頑張ろうとする前向きな気持ちが大切であると感じていると思われる。

第2時では、「私には、がんばっている時、自分のために応援してくれる人や支えてくれる人がいてくれるので、ありがたいと思います」とワークシートに記述していた。このことから、自分を支えてくれている人に感謝の念を感じていると思われる。

第3時前半では、これまでの学習を基に、「希望・努力」の道徳的価値について、「感謝」の道徳的価値を関連付けて考えられるようにしたところ、以下の記述が見られた。

夢に向かって努力することは、とても大切なことです。努力できるのは、自分のことを応援してくれる人がいるからということをおぼえてはいけません。ありがとうございました。

努力することの大切さに気付いているだけでなく、応援してくれている人の存在を知った。応援してくれる人の存在が努力の拠り所であることを理解し、感謝していると思われる。

以上のことから、抽出児童Bは、関連の道徳的価値を手掛かりに中核の道徳的価値を深め、道徳的判断力を高めることができたと考えられる。

② 第3時前半の記述と事前・事後アンケートから

第3時の児童のワークシートの記述に、「あきらめそうになった時、簡単にあきらめるのではなく、支えてくれた人たちのためにも、がんばり続けることが大切だと思います」や「夢とは、信じて進めば必ずかなうもの。でも、時にはくじけてしまう。そんな時、応援してくれる人が必ずいるから、努力して夢をかなえることができるのだと思う」などの記述があった。

また、授業実践の前後に「夢の実現に向けて必要なこと」について記述できるようにしたところ、事前では「努力」「練習」「頑張る」「あきらめない気持ち」などが見られた。このように記述した児童は71%であった。事後は、上記以外に「人とのつながり」「協力」「仲間」「支えてくれる人」「感謝」などの記述があり、記述した児童も94%に増えた。これは「夢の実現に向けてどう行動す

ることが望ましいのか」を判断するための手掛かりを考えられるようになってきたからだと思われる（図8）。

このようにあきらめないことや努力することの大切さを、支えてくれている人への感謝の念と関連付けていることや、記述した人数と他者とのかわりを表す言葉が増えたことなどから、道徳的判断力が高まったと考える。

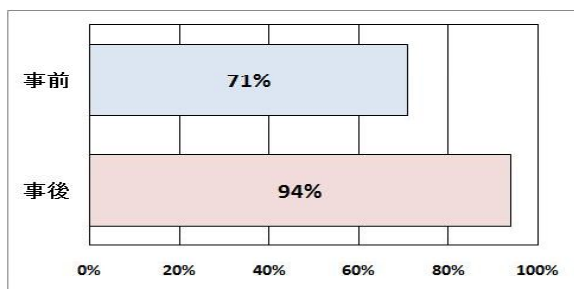


図8 夢の実現に必要なことの記述

以上、①と②から、関連型単元において、複数の道徳的価値を扱い、道徳的価値を関連付けながら追求していく授業実践をしていけば、道徳的判断力が高まっていくことが分かった。

3 見通し3

単元的な道徳学習の終末部に、学んできた道徳的価値から自分自身を見つめ直し、「なりたい自分像」と「具体的な行為像」を考えることのできる自己内対話を取り入れたことは、道徳的实践意欲と態度を高める上で有効であったか。

(1) 連続型単元に取り入れた実践の結果

2年生の実践では、第3時の後半部において、「これまでにクラスの友達のために何か行ったことはありますか」と問うと、「鉛筆を貸してあげた」や「給食当番の仕事を手伝った」などの発言があった。その後、「思いやりの心いっぱいのクラスにする為にどんな子になりたいですか」と問い、「自分を見つめるシート」を活用して自己内対話を行えるようにした。児童は「自分を見つめるシート」に、「つくえやいすがそろっていなかったらそろえられる子。みんながよろこんでくれそうだからです。だから、気がついたらすぐにそろえます」「いろんな友だちとなかよくできる子。友だちとあそんでなかよくなると心があたたくなるからです。けんかを見つけたらとめたいです」などの記述をした。

(2) 関連型単元に取り入れた実践結果

6年生の実践では、第3時の後半において、小

学校の生活で多くの人に支えられてきたことと、卒業まで5カ月であることを意識できるようにし、「自分を見つめるシート」を活用して自己内対話を行えるようにした。児童の記述には、「4月に立てた目標を達成したい。これまで自分の立てた目標に向けて意識していなかったので、チェック表を作って、週一回や月一回など確認をしたい」「下級生のお手本になりたい。これまでいろいろな人にお世話になってきたので、感謝の気持ちを込めて下級生ができないことなどを私たちが教えたい」など、他者とのかわりを含む記述が多く見られた。

(3) 考察

(1)と(2)の結果から、児童は学習したことを基に、なりたい自分像や具体的な行為像について考えることで、よりよく生きようとする気持ちを行為に結び付けようとすることができたと考える。

以上のことから、単元的な道徳学習の終末部に、自己内対話を取り入れれば、道徳的实践意欲と態度が高まっていくことが分かった。

VII 成果と課題

1 成果

連続型単元による授業実践では道徳的心情を、関連型単元による授業実践では道徳的判断力を高めることができた。また、単元的な道徳学習の終末部において、「自分を見つめるシート」を活用した自己内対話する活動を取り入れたことによって、道徳的实践意欲と態度を高めることができた。このような単元的な道徳学習を構想し、授業実践をすることにより、よりよく生きようとする児童を育てることができた。

2 課題

連続型単元と関連型単元の構想において、ほかの道徳的価値の組み合わせを考え、単元開発し、実用化を図る必要がある。

<参考文献>

- ・毛内 嘉威 著 『道徳性をより高める単元的道徳学習』 学事出版(2008)
- ・永田 繁雄 編 『「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業』 教育出版(2006)
- ・鈴木健二 著 『道徳授業づくり上達10の技法』 日本標準(2008)